



★今月号のラインナップ★

1. [ひろば](#)

「達者が一番」

保健厚生課長 宮下 朋子

2. [特集](#)

スーパーグローバルハイスクール

長野県長野高等学校

3. [現場レポート](#)

○ネパール教師海外研修報告

教学指導課高校教育指導係 指導主事 竹内 宏枝

○給食センター お仕事探訪

教育総務課企画係 担当係長 小澤 利彦

4. [ご存知ですか](#)

「体力づくり強調月間」 ～手軽なことから動きはじめましょう～

スポーツ課

5. [イベント情報・お知らせ](#)

長野県、教育委員会事務局内各課からのお知らせ、
生涯学習推進センター、県立図書館等のイベント情報等

6. [あとかき](#)

「達者が一番」

保健厚生課長 宮下朋子

「達者が一番、長者が二番」88歳で亡くなった祖母の口癖でした。明治生まれの祖母は、日々野菜作りに励み、腹八分目の食事を心がけていました。

祖母が亡くなったのは昭和52年、当時の長野県の女性の平均寿命は77歳、全国では16位でした。それから30年余、平成22年の長野県の女性の平均寿命は87.18歳となり男性の80.88歳とともに日本一に大躍進しました。

さらに、健康寿命（平均自立期間）も男性79.46歳、女性84.04歳と、こちらもともに日本一になり、長野県民の健康で長寿の実態が明らかになりました。この要因について県の健康長寿プロジェクト・研究事業の分析によると



- ・保健所での活発な栄養指導や、食生活改善推進員による地域での健康づくり活動
- ・高い就業意欲や積極的な社会活動への参加による生きがいを持った暮らし
- ・健康に対する意識の高さと健康づくり活動の成果

などがあげられています。

ところで、皆さんは自分の健康に自信がありますか。私も、かつては健康だけが取柄と自負していましたが、ご多分に漏れず、毎年定期健康診査の結果を見る度に、BMIの数値が増加し、出るのはため息と言いつつ、これでは良い訳ないなと思いつつ、たいした運動もせず、ストレス解消目的で、丈夫な胃を暴飲暴食で酷使しています。

長野県教育委員会が定めた「教育課程編成・学習指導の基本」16健康教育の項目では、「自分の健康に関心をもち、よりよい生活をしていこうとする健康教育」を目指しており、中学校3年生の保健体育では「生活習慣病の予防」を学んでいます。学習のまとめとして「バランスの良い食生活、適度な運動などの生活習慣が生活習慣病を防ぎ、生涯にわたる心身の健康につながる。」となっており、正に今の私が実行しなければいけないことそのものです。

忙しい毎日、ハードな運動を続けることはなかなかできませんが、まずは3分間ストレッチングを習慣にして、気分転換から生活改善をしたいと思います。

皆さんも日ごろから、心身の健康に関心をもち、健康で長生きを目指しましょう。

最後に、皆さん、定期健康診断はもうお済みでしょうか。

人間ドック対象の方は、指定の医療機関で確実に検診を済ませましょう。

定期健康診断による病気の早期発見で、早期治療につなげましょう。

無理と過信は禁物です。何といたっても、達者が一番です。

本校は、平成26年度から30年度までの5年間、文部科学省からスーパーグローバルハイスクール（以下SGH）に指定されました。（全国では56校が指定され、本県では本校だけです。また、SGH事業を踏まえたグローバル・リーダー育成に資する教育の開発・実践に取り組むSGHアソシエイト校として上田高等学校が指定されました。）

SGHの目的は、社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付けた、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成です。具体的には、国際化を進める国内の大学を中心に、企業、国際機関等と連携を図り、グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や、グローバルなビジネスで活躍できる人材を高等学校段階から育成する（文部科学省）というもので、課題研究を通してそのための教育課程や指導方法等を研究します。

本校では、研究構想名を『観光を核にした国際都市NAGANOを担うグローバル・リーダーの育成』と定め、課題研究は「長野県クロスエリア型グローバル観光戦略の研究」を行います。NAGANOの魅力や価値を高めて世界に広め、多くの人にNAGANOに来てもらうために、長野県の「強み」である、スポーツ、農業・食品、生産財・林業、地域ブランド、自然・環境、教育・歴史・芸術・文化、健康長寿の7分野から1分野を選択し、テーマを自ら決定し、フィールドワークを中心とする探究活動を行い、研究成果を発信、提案します。その一環として2年次には、秋に台湾研修旅行を4泊5日で行い、高雄市の高校生と交流し、ディスカッションする予定です。また、優れた課題研究を行った生徒40人を3月に米国研修に参加させ、国連を訪問したり、ボストンではハーバードやMITの大学生、現地高校生と交流しディスカッションする予定です。3年次には、「善光寺グローバルサミット」を開催し、各国から高校生を招聘し、課題研究の成果を発信するとともに、世界の未来を熱く語り合う計画です。

本年度1年生から、総合的な学習の時間で「長野のグローバル戦略を探る」と題して課題研究を始めました。またSGH学校設定科目として、「グローバル経済」、「英語プロジェクトI」も開講しています。それらの取組の一端を紹介します。

課題研究「長野のグローバル戦略を探る」（総合的な学習の時間）

4月にオリエンテーションを行い、6月に「あなたに伝えたい『長野』」と題して課題研究のイメージづくりを行いました。8月6日（水）から8日（金）まで初めてのフィールドワークを体験しました。課題研究の分野、テーマ決めに向けたヒントを得たり、企業等を訪問し、見聞・体験することで視野を広げたりすることを目的として、1人2社から3社を訪問しました。コースの例としては、長野県果樹試験場→ビッグハット・若里市民文化ホール→北野建設株式会社・スキー部等があります。生徒からは、「足を運ぶことで、雰囲気を感じることができてよかった。」という感想がありました。受け入れ企業からも「高校生としての素朴で新鮮な質問を受け、あらためて経営者として考えさせられる面があった。」という感想をいただきました。生徒は実施後グループをつくり、まとめとプレゼンテーションを行いました。



ブレインストーミング

9月20日(土)には、分野別講演会を開催しました。県の農政部、産業労働部、企画振興部、環境部、県民文化部、健康福祉部の方とエムウエーブ社長の土屋龍一郎さんに各分野に関しての知見を広める講演を行っていただきました。



ホテルプレストンコートにて

グローバル経済

外部講師による講演会を多数実施しています。「グローバルリーダーとは」と題してエムウエーブ社長の土屋龍一郎氏、「EUがやってきた」と題してフランス大使館エヴァリーヌ・エチュベル氏、「世界に発信しよう！長野県畜産物の魅力」と題して県農業政策課農産物マーケティング室企画幹 長谷川正之氏に講演をお願いしました。

英語プロジェクト I

5月の連休にプレゼンテーションに向けた準備をするために Briefing Sheet を作成しました。9月には、Cambridge Readers, Discovery 全 96 冊から興味のある分野を選択し、その内容についてレポートを作成しプレゼンしました。2年次の研修旅行に向けて ICT を効率的に活用し、プレゼンする方法を学んでいます。

これらの取組の他にも希望者を対象として、「小布施×Summer School by H-LAB」への参加や AFP デジタルラーニング特別研究ゼミ (AFP 通信社のコンテンツを用いてグローバルな課題について探究し発信する講座) 等も実施しています。

8月22日(金)は希望者を対象に、小布施サマースクールに参加したハーバード大学をはじめとする海外大学生と交流を行い、善光寺周辺を本校生徒が英語で説明をしながら散策し、学校に戻って味噌汁づくりを一緒に行いました。生徒からは、「国際交流のときはもちろん、日本人同士でコミュニケーションをとる場面にも生かすことができると思った。人と関わるあらゆる場面で、今回の経験を生かして、積極的に相手を知ろうと思い、自分の意見をきちんと言葉にして伝えられるようにしていきたい。」という感想を得ました。



A F P デジタルラーニング特別研究ゼミ



海外大学生との交流

終わりに

SGHの取組は始まったばかりですが、更に充実したものにしていきたいと考えております。単なる知識の詰め込みだけではなく、探究的な活動を通して、生徒自らが課題を発見し解決の糸口を見つけ出そうとする姿勢や能力を育てるとともに、単に英語ができるのではなく、グローバルな視点で物事を考え行動できる人間の育成を目指しています。

◆お問い合わせ◆

長野県長野高等学校

TEL 026-234-1215 FAX 026-234-3500

E-mail : naganohs@nagano-c.ed.jp

目次に
戻る

1 研修の概要

今回、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施した「教師海外研修」により9月13日（土）から9月21日（日）の9日間ネパールに行く機会を得ました。

JICAでは、国際理解教育や開発教育に関心を持つ教員を対象に、実際に開発途上国を訪問することで、そこに暮らす人々の生活や国際協力の現状、日本との相互依存関係等に関する理解を深め、教育活動の一層の充実を図ることを目的に「教師海外研修」が昭和40年度の高教員派遣から始まり、毎年実施されてきました。平成23年から従来の教師海外研修プログラム教員コースに加えて文部科学省、教育委員会の教育行政担当者コースが実施され、今回はこのコースでの研修に参加しました。

ネパールでは、JICAやNGOが行う国際協力の現場の視察と関係者との意見交換、現地の学校や教育局の訪問と教育関係者との意見交換、文化、生活、社会情勢の理解を得るためのホームステイなどを行ってきました。



バタン王宮広場

2 青年海外協力隊の取組

日本の小学校教諭が青年海外協力隊員として、児童を中心とした指導法の普及を目指して奮闘している様子を視察しました。また、青年海外協力隊員の関わりによって改善されたネパールの先生方の授業も見学しました。授業では、基礎的・基本的な知識を身に付けさせた後、これらを活用して表現力を養う、児童を中心とした指導を意識した授業が行われていることが確認できました。

限られた時間と財源の中、日本と違う環境で、若い日本人の教員が「子供たちの教育のために、将来のネパールの教育のために」活躍する姿は頼もしく、素晴らしいものでした。



青年海外協力隊員と子供たち

3 シニア海外ボランティアの取組

日本のシニア海外ボランティアが現地教員に対して体育の現地指導を行っている様子を視察しました。ネパールでは体育のカリキュラムは存在するものの、指導者である教員が体育の指導法や授業展開について十分な指導を受けていません。子供たちが楽しく元気に、体ほぐし運動や大縄跳びをする姿がとても印象的でした。



小学校体育の様子

4 終わりに

海外で活躍する人々から、自ら課題を見つけ解決する力、他者と協働するためのコミュニケーション能力、物事を多様な観点から考察する力が求められていることを学びました。

また今回の研修は「持続可能な社会の構築に向けた学校教育の在り方」について学ぶ機会になりました。現行の学習指導要領の特徴の一つにESD（Education for Sustainable Development）の視点が新たに盛り込まれています。今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があり、これらの現代社会の課題をそれぞれの授業を通して自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習が望まれていると思います。

誰もがそうだと思いますが、子どものころ学校での一番の楽しみは給食の時間でした。

今回は、北安曇郡松川村にある「池田松川学校給食センター」にお伺いし、給食の現場について取材しました。

池田松川学校給食センターは、安曇野の北寄り、高瀬川の流にほど近い松川中学校に隣接しています。

現在の建物は今年の春に建てられたばかりということで、明るいくリーム色の外観は、北アルプスの山並みや安曇野の風景にとってもマッチしています。緩やかなカーブを描く屋根の上には、エコロジーにも配慮して太陽光発電システムが設置されているとのことでした。

給食センターで、栄養教諭としてお勤めの中村紗也加先生にお話を伺いました。



池田松川学校給食センターの外観

——最初に、この給食センターの概要やお仕事の様子について教えてください。

「池田松川学校給食センターには14名の調理員と4名の栄養士、2名の事務職員がいて、毎日、池田町と松川村にある5つの小中学校の、約1800食分の給食を作っています。

給食センターでは、毎朝8時15分からその日に使う食材の検収や調理を始め、子どもたちにおいしく安心安全な給食を届けています。午後は、学校から戻ってきた食器の洗浄作業などを行っています。」

——4名の栄養士の中の一人が、栄養教諭である中村先生なんですね。

「はい。栄養教諭というのは平成17年に新しくできた職で、学校での食育なども行います。私も日ごろから池田町・松川村内の小中学校の各クラスを訪問して、児童生徒の皆さんに給食や食生活のことなどについて指導を行っています。

また、栄養教諭は、学校と地域の農家を繋ぐなど、食に関するコーディネーターとしての役割も期待されているんですよ。」

——最近では県内各地でも、給食における地産地消が進められていますね。

「実はこの池田松川は、お米やりんご、きのこなど、地元で取れる産物がとても豊かな地域なんです。給食のご飯は地元産のコシヒカリですし、私たちが特に意識しなくてもいいくらい、毎日自然に、給食に地元の食材が使われています。特に収穫の秋を迎えるこれからの時季は、葉物や根菜類など、たくさんの地元食材が給食に登場することになります。

それに食の安全の面からも、生産者の顔が見えるというのはとても大事なことなんです。」



地元の大根、白菜、りんごなどが使われている給食

——最近では食物アレルギー問題など、給食における安全管理も話題になりますが。

「はい。県内の給食センターでも増えていますが、池田松川学校給食センターには、一般の調理室とは別に『アレルギー調理室』が設けられています。児童生徒によって原因となる食材は異なりますが、今年度は30名の児童生徒にアレルギー対応食を提供しています。

また、テレビや新聞で、給食への異物混入や食中毒のニュースが報じられることがありますが、決して他人事とは思えません。どんな可能性もゼロではありませんから、子どもたちが安心して給食を食べられるよう、定期点検や温度管理など毎日細心の注意を払っています。」

——この給食センターでは、2階から調理室の様子が見えるようになっていていますね。見学にも配慮して造られているところなど、地域に開かれている感じがしました。

「調理室は衛生管理上、部屋で区切られているので、2階から一部でも見学できるように大きな窓を設けました。

また、毎年7月には地域の方を対象とした給食の試食会を開催していて、今年は4日間で100名以上の方が参加されました。ご近所の方や、お孫さんがどんな給食を食べているか見に来た祖父母の方、また、来年小学校に入学するお子さんをお持ちの保護者の方などがいらっしゃいました。

8月の夏休みには親子見学会も開催して、児童生徒や保護者の皆さんに給食センターのことをよく知ってもらい、より給食に親しんでもらえるよう取り組んでいます。」



2階の廊下の窓(正面と左手)から、1階の調理室が見学できます

——最後に、給食を作る仕事をされていて、おもしろいと感じることや、やりがいは何でしょうか。

「毎日の給食の後に戻ってきた残菜を見れば、子どもたちの好みや食の傾向が分かります。

実は、残菜を出さないようにするのは簡単で、子どもたちが好きで食べやすい献立にすればいいんです。でも、小骨のある魚や豆など、箸で食べにくいものも出します。担任の先生からも、「今日のメニューは子どもたちが苦戦していたので、ぜひまた出してください」とリクエストされることもありますよ。

また、子どもたちにはその季節の旬のものを味わってもらいたいんです。

『サンマには骨がある』、また『春の柑橘はちょっと苦い』ことなど、子どもたちには、箸の使い方や味覚を通して、食についてしっかりと経験してほしいと思っています。」



午後にお伺いしたので、職員の皆さんは洗浄作業をされていました

*** 筆者の感想 ***

子どもの頃は当たり前のことと受け止めていましたが、大人になった今から振り返れば、毎日おいしい給食が食べられるということは、とても幸せなことだったと思います。さらに今回の取材を通じて、給食センターの皆さんが地元食材の活用や安全管理に気を配ったり、食べることについてのきめ細やかな指導に取り組んでいることをお聞きし、今の子どもたちがとてもうらやましくなりました。

また、中村先生に施設を案内していただいた際、一角に、児童生徒が職員の皆さんに宛てて書いたお手紙などが展示されていました。その中に、中学校の卒業生一人ひとりが、それぞれの言葉で9年間の給食への感謝の気持ちを記した寄せ書きがあり、給食のありがたさが、子どもたちにもちゃんと伝わっていることを感じました。

今回お話を伺った、栄養教諭の中村先生です



※池田松川学校給食センターは、ホームページによる情報発信にも積極的に取り組まれていますのでご紹介いたします。(URL : <http://www.vill.matsukawa.nagano.jp/~kyushoku/index.html>)

<この記事の内容は、取材をもとに構成したものです。(文責：教育総務課企画係 小澤利彦)>

◆お問い合わせ◆
教育総務課企画係

TEL 026-235-7423 FAX 026-235-7487

E-mail : kyoiku@pref.nagano.lg.jp

目次に
戻る

□運動習慣の状況

文部科学省「体力づくり国民会議」では、10月に「体力づくり強調月間」を設け、広く国民にスポーツや運動を通して、体力づくりや運動習慣構築に向けてのきっかけづくりを呼びかけています。気候もよく体を動かすにはよい時期になってきましたので、体力に自信があるなしにかかわらず、スポーツや運動に親しんでいただきたいと思います。

□県のモニターアンケート調査から

健康にいい、ということはわかっているけど、忙しくて・・・という人も多いのでは。

まさにその通りで、県のモニターアンケート調査では定期的な運動をしている人は約50%、運動をしている人としていない人はだいたい半々でした。定期的な運動をしない理由を聞くと、「時間がない」という答えが多いです。

□プラス10分

そういう方にまずお勧めしているのがウォーキングです。

厚生労働省でも現在の運動時間にプラス10分体を動かすことを推奨しています。運動をしていない方にとっては、まず10分運動しませんかということになります。手軽に始められるところから体を動かす習慣を身に付けましょう。

お仕事や家事でお忙しいとは思いますが、通勤・帰宅途中等でちょっと回り道をしてみたりすることで、プラス10分が生まだせると思います。

職場でも「スポーツのためのノー残業デー」を設ける等の、後押しをしていただけると嬉しいですね。日頃、車や自転車通勤で何気なく通う道も、実際に歩いてみたり、またいつもと違うところを歩くことで新しい発見があったりすると楽しくなりますよね。そういう楽しみが生まれてくると体を動かす習慣にもつながります。

観光案内を見に行くと、このごろは町歩きも流行っているようで、散策マップなども用意されている地域も多いです。

□まずは、動き始めましょう！

10月は、各地域でも手軽に参加できるスポーツイベント等が開催されています。意外と身近なところで行われていますので、あまり肩ひじ張らずに気軽に参加し、体を動かすきっかけとしていただければと思います。

運動に適した季節ですので、それぞれの目的や体力等に応じて、家族や友人とウォーキングをはじめスポーツ、運動を楽しんでみてはいかがでしょうか。

◆お問い合わせ◆

スポーツ課体育スポーツ振興係

TEL 026-235-7449 FAX 026-235-7476

E-mail : sports-ka@pref.nagano.lg.jp

[目次に
戻る](#)

イベント情報・お知らせ

★スポーツ課からのお知らせ★

◆第 63 回長野県縦断駅伝競走

期 日：11 月 14 日(金) 17:00 開会式

11 月 15 日(土) 8:30 信毎本社前スタート (1 日目 長野市⇒岡谷市 12 区間)

11 月 16 日(日) 8:00 松本城スタート (2 日目 松本市⇒飯田市 10 区間)

コース：22 区間 217.5Km

参加チーム：県内 15 チーム (郡市ごとに編成)

「一本のたすき」に思いを込め、郷土の期待を担い、晩秋の信濃路を駆け抜ける第 63 回長野県縦断駅伝が 11 月 15 日(土)・16 日(日)に開催されます。地元チームの活躍と駅伝王国長野の更なる発展を願い、力走する選手をみんなで応援しましょう。

◆メールマガジン「部活動NAGANO」

本県の運動部活動を応援するメールマガジン「部活動NAGANO」を平成26年6月26日に創刊しました。以下のHPで登録方法をご案内しておりますので、積極的に登録をお願いします。

【長野県教育委員会 スポーツ情報 WEB ページ】

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku/sport/index.html>

◆スポーツ課 facebook

長野県教育委員会事務局スポーツ課の facebook は、競技会情報、表敬訪問の様子及びスポーツ課の日常風景等、長野県のスポーツに関する話題を幅広く掲載しています。是非ご覧ください。

<https://www.facebook.com/sports.nagano>

◆お問い合わせ◆

長野県教育委員会スポーツ課

電話：026-235-7449 FAX：026-235-7476

E-mail：sports-ka@pref.nagano.lg.jp

[目次に
戻る](#)

★長野県生涯学習推進センター研修講座のご案内★

11月から12月までに開催する研修講座のご案内をいたします。詳細については、当センターのHPをご覧ください。皆様の参加をお待ちしております。

タイトル	日時	実習・講座
◆生涯学習月間講座 「地域づくりと防災」	11月6日(木) 時間 9:40～16:00	講義「社会総ぐるみでの人づくり」 講師 文部科学省 教科調査官・生徒指導調査官 長田 徹 氏 事例発表Ⅰ「『シリーズ わが町の防災を考える2013』の取組について」 発表者 前松本市寿台公民館館長 吉村 幸代 氏 事例発表Ⅱ「社会福祉協議会・地域と連携した『避難所運営ゲーム』の取組について」 発表者 篠ノ井高校犀峽校副校長 依田 彰 氏 演習「避難所運営ゲーム(HUG)の実際」 講師 長野県危機管理防災課 防災指導員 玉野井 博 氏
◆家庭教育講座 「発達障がいの理解と支援」 ※ 託児可	11月25日(火) 時間 13:00～16:00	講義「発達障がいの理解と支援」 講師 総合教育センター生徒指導・特別支援教育部専門主事 堀内澄恵 氏
◆生涯学習月間講座 「シンポジウム 子どもの生きる力を育てる体験活動」	12月4日(木) 時間 9:40～16:00	基調講演「生涯学習社会と子どもの休日・放課後－米国と日本の先進事例に学ぶ－」 講師 NPO法人「教育支援協会」代表理事 吉田 博彦 氏 話題提供・ディスカッション

※受講は無料です

※詳細は、開催日の1か月ほど前に出される開催要項でご確認ください。生涯学習推進センターのホームページは <http://www.nagano-c.ed.jp/shogai/> です。

◆お問い合わせ◆

長野県生涯学習推進センター
〒399-0711

長野県塩尻市片丘南唐沢 6342-4

電話：0263-53-8822 FAX：0263-53-8825

E-mail：shogai.gakushu@pref.nagano.lg.jp

★県立長野図書館からのお知らせ★

1. 「第5回 起業・経営無料相談会 in 県立長野図書館」を開催します

当館では、一般社団法人長野県経営支援機構との共催により、ビジネスに関する相談を受け付ける相談会を下記のとおり行います。どなたでも無料で相談でき、専門家が対応します。また、事前予約の内容をもとに司書が相談の参考になる資料を紹介いたします。ぜひお気軽にご相談ください。

◆日 時：11月1日（土） 13:30-16:00

◆会 場：当館3階 第1会議室

◆対 象：県内の事業経営者をはじめ、起業等を考えている方

◆相 談 員：中小企業診断士・社会保険労務士・税理士・弁理士・弁護士・公認会計士等

（参考資料の紹介や調査は司書がお手伝いします。）

◆申込方法：事前予約制（申込書に必要事項を記入の上、当館宛にメール・FAX・郵送でお送りいただくか、直接ご持参ください。）

◆受付期間：10月24日（金）まで

□申込に関する問合せ：企画協力課（[TEL:026-228-4939](tel:026-228-4939)）

2. 「第64回 長野県図書館大会」が開催されます

県内の図書館、読書団体、ボランティア等各種関係者が様々な分科会に分かれて学びあう長野県図書館大会が、今年も下記のとおり開催されます。

◆大会テーマ：学びや暮らしの中に生きる図書館の望ましいあり方を探る

～つなぐ、つながる学習拠点として、生きる力を支えるこれからの図書館
と読書活動を目指して～

◆日 時：平成26年11月8日（土） 10:00-15:40 まで（受付開始9:30から）

◆会 場：＜開会式、講演会会場＞茅野市民館

＜分科会会場＞茅野市立永明中学校、茅野市家庭教育センター ほか

◆基調講演：演題「本と言葉」 講師 金田一秀穂氏

◆参加費：2,000円（大会資料代を含む）

□申込・問合せ：茅野市図書館 〒391-0011 茅野市玉川 500

TEL:026-228-4939 FAX:0266-73-8644

3. 休館日のお知らせ

10～11月の休館日は、次のとおりです。

- ・月曜日 11月3、10、17、24日
- ・月末整理日 11月28日（金）
- ・その他 10月1日（水）～31日（金）

※10月中はトイレ排水管等工事及び蔵書整理のため休館しています。

■年間の図書館カレンダーは、下記からご覧いただけますのでご利用ください。

→ <http://www.library.pref.nagano.jp/guidance/access#cft4>

◆お問い合わせ◆

県立長野図書館

〒380-0928 長野県長野市若里1-1-4

TEL:026-228-4500 FAX:026-228-4933

E-mail: naganotoshokan@pref.nagano.lg.jp

★第 981 回長野県教育委員会定例会の資料を掲載しました★

- 平成 26 年度「長野県教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価」について (PDF : 2, 839KB)
- 長野県高等学校将来像検討委員会委員の委嘱 (任命) について (PDF : 143KB)
- 長野県文化財保護審議会委員の委嘱について (PDF : 105KB)
- 長野県天然記念物の指定について (PDF : 7, 953KB)
- 平成 27 年度長野県公立高等学校入学者選抜における学校別実施内容について (PDF : 501KB)
- 平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果について (PDF : 768KB)
- 平成 27～30 年度 小学校及び特別支援学校小学部で使用する教科書について (PDF : 230KB)
- 平成 26 年度全国中学校体育大会及び全国高等学校総合体育大会等における成績について (PDF : 214KB)
- 第 35 回北信越国民体育大会における成績について (PDF : 31KB)

↓資料掲載ページはこちら

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku/goannai/kaigiroku/h26/teireikai/shiryo/981kai.html>

あしがき

メールマガジン11月号をお送りします。

食欲の秋到来のおり、ついつい食べ過ぎてしまいがちの今日この頃ですが、「ひろば」欄の「達者が一番、長者が二番」という言葉を見て、気をつけなければと思いました。

祖父母から聞いた言葉というのは、ずいぶん前に聞いたものであっても意外に覚えている気がします。

昔、私の祖母はよく、「山ほど想って、針ほど叶うものだ」と言っていました。

あまり前向きには聞こえない言葉かもしれませんが、私自身は「針ほどの小さなことを叶えるためには、山ほどの努力をしなくてはならない」という教訓として捉えていました。

激動の大正・昭和時代を生き抜いてきた世代の言葉だからこそ、胸に響いたおぼえがあります。

(か)

目次に
戻る